

7

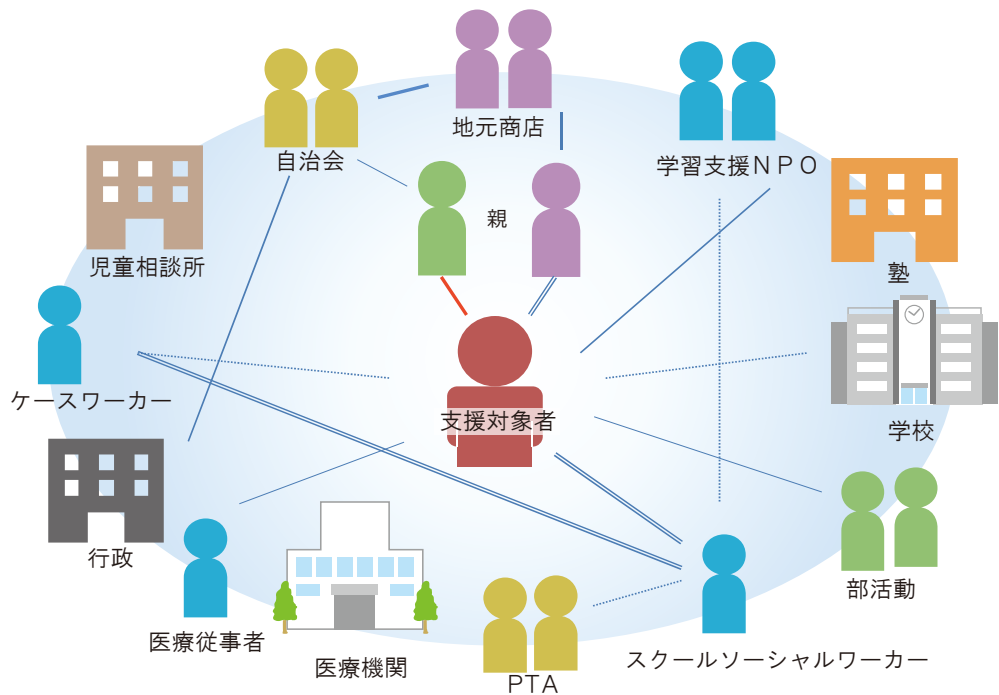
効果的な連携

関係性を整理する

効果的な連携を進めるためには、どの団体や機関と連携をとればよいのでしょうか？その検討のために、支援の対象者とそれを取りまく環境を書き出して整理してみましょう（エコマップの作成）。

支援対象者とそれを取り巻く社会資源を、「強い関係（二重線）」、「普通の関係（実線）」、「弱い関係（点線）」、「対立関係（赤い線）」などで書き分けるとわかりやすくなります。エコマップができれば、支援のための効果的な連携先を探ってみましょう。

エコマップの例

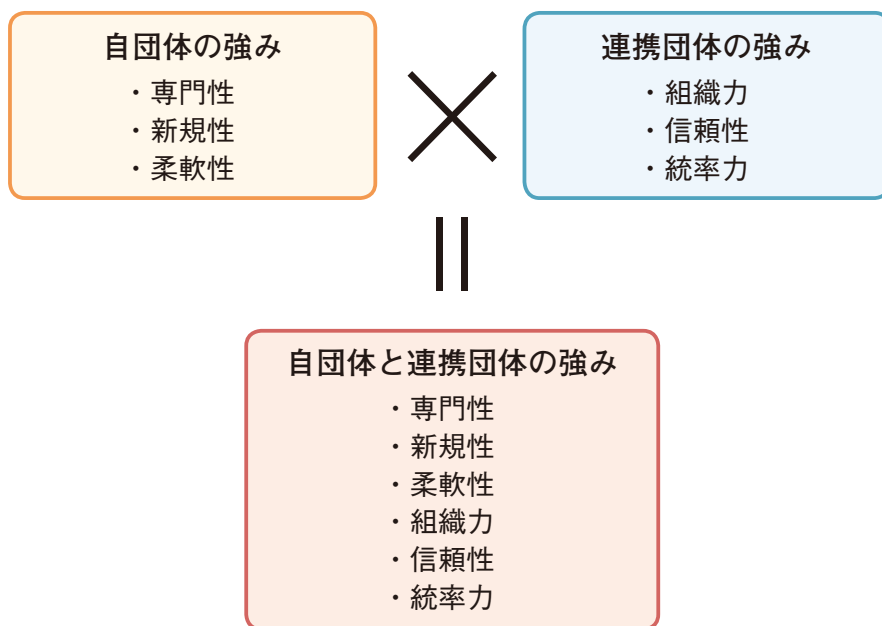


連携団体の強みや専門性を活かす

「連携」のポイントは、自団体と連携先の強みを活かし合う形となっているかということです。連携により、一団体では実現し得ない成果を生む可能性があります。

他方、自団体の強みを活かして連携団体の力になることも合わせて考えてみましょう。

連携（例）



8

協力者を増やす

分かりやすく伝える

NPOの活動の協力者を増やすためには、ミッションを理解してもらうことから始まります。そのためには、ミッションを明確にし、わかりやすく伝えることが、はじめに必要となります。

■ ミッション＝課題解決の必要性を伝える

団体が掲げているミッション＝課題解決をしなければいけない背景、課題解決によって得られる効果など、いつでも説明できるように準備しておきましょう。

■ 分かりやすいことばで

ミッションを伝えるときに、誰もがわかるように、わかりやすいことばで言い換えをしていますか。また、課題解決で実現する未来には、人をひきつける「わくわく感」がありますか。

多様な関わり方を用意する

協力者の特性に応じ、協力する側が協力しやすいような受け入れ体制を整えましょう。「受援力（支援を受ける力）」を高めるための工夫について、以下に2つお示します。

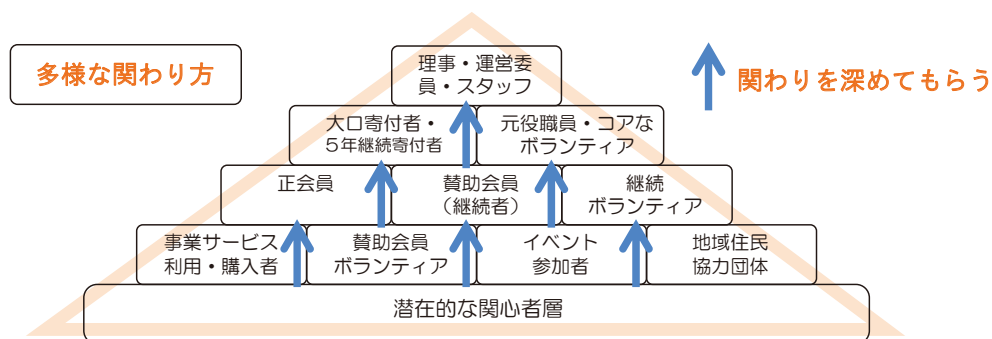
■ 多様な関わり方ができるように

支援者が気軽に協力できるような単純な作業、たとえばDM（ダイレクトメール）の袋詰めなどを、用意しておくことも必要となります。また、専門性がある方には、特定の役割を担っていただくことも考えてみてください（プロボノ）。たとえば、イラストが得意な人にチラシの作成、会計に明るい人には帳簿の整理をお願いするなどです。

■ 関わりを高めてもらえるように

継続的な活動の支え手となってもらうためにも、関わりを高めてもらう方策も考えてください。

たとえば、ボランティアでの協力→正会員→寄付者→運営スタッフなどの形で、関わりを高めることができるステップを想定しておきましょう。



出典：日本ファンドレイジング協会テキストを参考に作成